

# 地域で連携しワクチン職域接種

## メタルワン菱和の取り組み

日本有数の工業地帯である水島臨海工業地帯（岡山県倉敷市）の一角で、メタルワングループのコールセンター・メタルワン菱和（本社＝倉敷市、流田副社長）が医療機関や周辺企業と連携し、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を始めた。モノづくりを支える鉄鋼サプライチェーンを守ろうと、社内に接種会場を設置し、自社・周辺企業の社員とその家族を対象に接種を進める。業種や系列の枠を越えた地域での感染対策の取り組みを取材した。



流田社長と森野医師

**職域接種** 職域接種の会場は、メタルワン菱和の工場に設置し、自社の社員とその家族を対象に接種を進める。業種や系列の枠を越えた地域での感染対策の取り組みを取材した。

職域接種の会場は、メタルワン菱和の工場に設置し、自社の社員とその家族を対象に接種を進める。業種や系列の枠を越えた地域での感染対策の取り組みを取材した。



水島地区は、鉄鋼大手や自動車メーカー、石油化学メーカーなどが拠点を置き、水島コンビナートを形成する。規模の大きい事業所では各社で

# 健康とサ。プライチエーン守る



ワクチン接種の様子(休憩などに使う厚生棟に会場を設置した)

職域接種を実施しているものの、対象は自社社員や関係の深い協力会社に限られていた。

周辺エリアには原料供給や素材加工、物流、各種工事などさまざまな形で大手企業と関わる地場企業も多い。地域の感染防止と経済活動を両立す

るにはこうした企業での接種拡大が不可欠だが、個社では希望者の人数確保が難しく、職域接種を実施できなかった。

今年5月、流田社長が「サプライチェーンを維持するため、感染対策を前進させたい」と、まず

野崎雄医師に相談を持ち掛けたことから、今回の職域接種は動き出した。森野医師は「もともと集団接種に前向きだったものの、クリニックには広い駐車場やワクチン接種後の副反応も備える待機場所がなく、これまで実

行できなかった」という。会場にメタルワン菱和の施設を活用することで話を進め、近隣企業に協力を呼びかけ、実現にこぎつけた。流田社長は「経済活動を継続させるため、地域社会で互いに助け合いたい」と思いは同じだった」と振り返る。

職域接種には、鉄鋼関連の企業も参加した。JFE商事系のコールセンター、水島鋼板工業は、同じ自動車メーカー向けの鋼板加工を手掛けている。メタルワン菱和からワクチン接種の打診を受けた。井原秀幸社長は「家族を含めて約80人が参加させていたが、社員も喜んでいて、一気に接種率が高まり感染防止、操業維持の点から大きな安心感を得ることができた。当地区鉄鋼業にとってもありがたいとあり感謝に堪えない」と謝辞を送る。

同じJFE商事グループの内外スチールは、水島鋼板工業からの紹介で参加を決めた。社員と共に関心を持って訪れた西田雅伸社長は「自衛隊の予約が取りつらいうち、この形でワクチンを打つことができ助かった。取引先を訪問する機会が多くなる社員ももちろんない。